

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 29日

事業所名 児童発達支援 はっぴい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		活動内容や障害特性に応じ個室を活用するなどして工夫している。	個室を活用し自立課題に集中出来る環境を設定したり個別に対応出来る定員と支援員数の確保確実に行う。
	2	職員の配置数は適切である	7		個別訓練に専門職を配置するなど対応出来るよう配慮して	職員の配置数を確保し専門性を十分に発揮出来るように努める。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		様々な障害特性に対応出来るよう環境を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		広い活動スペースと個室があり、個別療育に必要な環境を整え、活用している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		PDCAサイクルに基づき、日々の評価をすくと共に定期的な話し合いに支援員全てが参加している。	業務改善のための話し合いを定期的実施し、職員の意見を改善に繋げるよう努める。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	保護者の評価を把握し、その内容を支援員間で共有し支援への反映に繋げている。	アンケート結果を受けて、次年度の業務改善に努めている。 課題を整理し具体的な方法を検討していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		毎年、HP及び紙面にて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		外部評価は実施出来ていないため、業務改善のために今後実施のために検討必要。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		オンライン研修や少人数での研修会に努めて参加した。 また、事業所内での研修も定期的実施している。	オンライン研修参加など積極的に受けていく必要がある。
適切な 支援の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		日々の打合せや毎月のミーティングにて児童の変化をみながらチームでプログラムを修正、立案している。	大まかな日常生活動作を把握するためのアセスメントツールを使用しているため、今後、具体的な状況を把握出来るアセスメントツールも導入していく必要あり。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		FIMやICFなどのアセスメントツールを使用し、定期的な評価を行っている。	大まかな日常生活動作を把握するためのアセスメントツールを使用しているが、今後より具体的な状況把握のためのツールを導入していく必要あり。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		集団活動、個別活動など、児童の参加状況や個別課題を把握した上でガイドラインに沿って活動プログラムを立案している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		子どもの興味・関心や発達段階に応じた個別活動と集団活動を提供している。	
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	利用児童のその日の状況に応じて、活動の提供、支援について支援員全てが確認し役割分担が出来ている。	日々、児童個々に応じた丁寧な打ち合わせと業務分担を確実に行い、児童の状況に応じて工夫をする必要がある。	

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	本人の希望する活動も尊重しながら活動提供しており、定期的に新しい活動を複数組み合わせ提供している		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	日々の打合せにて活動に応じた役割分担を行っている。	児童の状況及び支援を日々振り返り、内容、役割分担の確認を確実に行う。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	夕方の打合せの時間が持てない場合、全支援員が参加できる毎朝の打ち合わせにて前日の支援の振り返りを行い、変化や気付いた点について情報共有している。	全支援員が揃う時間帯の打ち合わせにて、支援に対する児童の変化などを十分に検討している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	日々、活動での支援の内容、様子について細やかな記録を取っている。		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	実施記録表に基づき、定期的にモニタリング・話し合いを実施している。		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1 担任の先生と密に情報交換をしたり、電話やメールなどで緊急時には連絡を取っている。	情緒面の不安定さのある児童について、共通理解をして対応できるよう日々の引継ぎや情報共有を密にできるよう努めたい。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			現在受け入れなし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			現在受け入れなし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		利用開始時、所属のこども園との連携をとり情報交換をした上で支援の検討をしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	進級時、学校との連携をとり情報交換をした上で支援の検討をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		専門機関より派遣職員を依頼し、直接指導、研修を受けている。	利用児童の状況に応じて適切な支援が実施できるよう、専門機関と定期的に連絡を取り合う必要がある。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		7		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時等にその日の様子や家庭での状況について情報共有し、課題への共通認識の理解に努めている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2	定期的に面談を実施したり、送迎の際に相談に応じている。	適切な助言が出来るよう研修に参加したり自己研鑽を重ね知識を深めるよう努める。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約の際に詳しい説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		ガイドラインに基づいた計画書を作成している。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		適宜面談にて実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		保護者同士の連携については定期的な保護者会の開催などサポート体制を整える必要あり。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		寄せられた意見に対しては速やかに適切に対応するよう努めている。	苦情を受けた場合に、速やかな説明を行うよう努める必要あり。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		定期的にSNSなどを活用し発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		SNS投稿のための保護者への同意を取った上で個人特定がされないよう配慮した投稿を連絡帳を活用したり、子どもが理解しやすいイラストなどを活用している。	事業所内にマニュアルを提示し、それに基づき保護者にも丁寧な説明が必要。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	母体となるめぐみ園の行事には地域住民を招待しているが、事業所単独での行事には招待していない。	
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	5	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年2回、避難訓練を実施している。	様々な災害に対する各種訓練を定期的実施していく。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		契約時の聞き取りにて詳しい状況を把握している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		アレルギーを持った児童に対しては、学校・医療との連携を取り、指示書に従って対応を取っている。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハット報告書に記載し、全支援員が情報を共有し支援の振り返りに繋げている。	
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		定期的に研修に参加している。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		やむを得ず身体拘束を行う場合について計画書に記載すると共に、保護者には詳しく説明をしている。	